



ほけんだより



境こども園
R8年6月

梅雨の季節がやってきました。天気や気温、湿度の変化が激しいこの時期は体調を崩しやすく、暑さにまだ慣れていないので熱中症の危険も高まります。食事や睡眠時間をしっかりとり体調の管理に気を付けましょう。



先月の子どもの様子

欠席内容・・・手足口病：11名 溶連菌感染症：5名 胃腸炎：3名
風邪（咳・鼻水など）22名

初めての集団生活や連休明けの疲れもあったのか、新入園児を中心に手足口病と溶連菌感染症、風邪が流行しました。
感染症の状況はこども園の入り口扉に張り出しますので、随時ご確認ください。



知らないと怖い夏の危険～夏は熱中症以外にも気を付けたいことがあります～

1. 水の事故

子どもは10センチでの浅い水深でも溺れることもあります。夏のレジャーだけでなく家庭用のプールやお風呂でも目を離さないようにしましょう。



2. 紫外線予防

つばの広い帽子、耳元まであるカバーは有効です。ラッシュガードの着用、日焼け止めを上手に使いましょう。



3. あせもなどの皮膚トラブル

夏はあせもになりやすいため、こまめに汗を拭いたり、シャワーをして肌の清潔を保てるようにしましょう。



4. 遊具などによる火傷

直射日光により遊具（滑り台のスロープ部分や、ブランコの鉄製部分）や砂場・地面は熱くなり火傷をする危険があるため、遊ぶ前に確認しましょう。



～虫さされについて～

蚊が出始める季節になりました。保護者の皆様に虫よけについてお伝えします。



<蚊にさされないようするには？>

★刺されやすい、刺されると腫れやすいお子さんは薄手の長そで・長ズボンを着用をする。

★登園前に虫よけを使用する

※虫よけリングは引っかかると怪我をする危険があるので園での使用はお控えください。

<虫よけ剤の使用について>

原則として“園では薬を預からない”ことになっており虫除け剤についても同様の扱いとしています。

何かありましたら保健の吉田までご相談ください。

虫よけ を 使うときは……

使える年齢・回数を チェック！

虫よけ成分や濃度によっては、使用できない月齢や年齢が決まっていたり、1日に使える回数が制限されていたりします。必ず、使用説明書をチェックしましょう。

使い始めのときは、少しだけ塗ってみて、皮膚に赤みやかゆみが出ないことを確かめましょう。



タイプを選ぶ

スプレータイプの虫よけは手軽ですが、小さな子どもに使うと、虫よけ成分を吸い込んでしまうおそれがあります。ジェルやクリームなど、肌に塗るタイプのほうが安心です。



<虫に刺されたら>

- ① 水ですぐに洗って冷やす
- ② 市販の虫刺され薬を使う



*虫パッチはかぶれなどの原因になることもあり、はがれて落ちると乳児が口にして窒息の危険がありますのでお控えください。

*刺されると痒みがでてきます。かいてしまい、その傷口から最近が入り「とびひ」になることがあります。ひどくならないように爪を切ってやすりをかけておきましょう。

*園で虫に刺された場合は、水で洗いベビームヒやレスタミンを塗っています。

また、園では吊り下げ式の虫よけ剤や蚊の苦手なハーブを栽培することで対応しています。

ハエ・蚊・アブ・蜂などの虫は、天敵とされているトンボの王様「オニヤンマ」がいると食べられることを恐れ本能的に寄ってこないらしいという話を聞き、園ではハンドメイドのおにやんまをいくつか吊さげています。

